

山形大学広報誌

みどり樹

Yamagata University Quarterly Magazine

Midori^{gi}

vol.36
Summer 2008



特別対談

音楽を通して
交流し、支援し合い、
山形を盛り上げるパワーに。

研究室訪問／農学部

ブナ林での調査から
自然界のリズムを読み解く。

特別対談

音楽を通して 交流し、支援し合い、 山形を盛り上げるパワーに。

山形交響楽団音楽監督

飯森範親

山形大学長

結城章夫

それぞれの立場での地域貢献が大いに期待される
山形大学と山形交響楽団。そのトップである結城学長と
音楽監督・飯森範親氏の対談が、新緑萌える5月に
山形県郷土館(文翔館)館長室を会場に実現しました。

音楽を愛し、ここ山形を愛する者同士、
音楽との出会いや山形の魅力、これからの地域貢献、
山形をいっしょに盛り上げていくための
交流・協力のあり方などについて熱く語り合いました。

【司会進行】 藤野祐一 山形大学教授



藤野 今日はお忙しいところありがとうございます。これから飯森さんと結城学長との対談を始めさせていただきたいと思います。では最初に、プロとアマチュアという違いはありますが、音楽との関わりが深いお二人ということで、それぞれの音楽との出会いや人生における音楽とは、そんなテーマでお話を伺いたいと思います。まず、結城学長に口火を切っていただきましょうか。

**その道のプロになろうと
素人であろうと、
音楽の影響力は小さくない。**

結城 私は、素人ながら音楽は好きな方だと思っています。きっかけは、高校での合唱活動。三年間、男声合唱と混声合唱の両方を一生懸命やりました。もう40年も前の話になりますが、当時の山形東高には、阿部昌司先生というとても熱心な音楽の先生がいて指導をいただいたものです。当時は、NHKと全日本の合唱コンクールでは、だいたい東北代表になっていました。その後、東京に出て仕事に就いて、とても忙しかったものですが、音楽からはだいぶん遠ざかってはいましたが、また歌いたいという気持ちになり、ここ10年は社会人合唱団で歌い続けています。最近、山響さんの演奏会には毎回行かせていただいています。

藤野 では、音楽のまったく中にならないういふ飯森さんは？

飯森 私の父方の祖父がチェロをやっていて、京都大学時代にあの指揮者の朝比奈隆氏とカルテットをやっていたらしいです。そんな環境におりましたので父にとってもクラシック音楽は常に身近にあったようですね。父は広告代理店マンで音楽家ではありませんでしたが、やはり音楽と関わる仕事でしたかったらしくてずっとレコード会社の担当をしていました。そのおかげで家には日本版のクラシック音楽のレコードはすべてそろっています。そういう点でも音楽をやる環境が整っていたのかなと思いますね。3歳か4歳のころにチャイコフスキーのピアノコンチェルトを聴いて、この楽器をやりたいと言ったらしいんですよ。それでピアノを買ってもらい、ヤマハの音楽教室に通い始めたわけ。そして、10歳の

頃にたまたま聴いた「ボレロ」に触発されて、子供心に感動し、この曲を指揮してみたいと思ったのが指揮者になろうと思ったきっかけです。でも、高校は普通高校だったので桐朋学園大学の指揮科に入るのはすごく難しくて、外部の高校から現役で入ったのは私が初めてだったらしいです。一日の睡眠時間は3〜4時間、とにかく必死で勉強しましたね。

藤野 飯森さんのお話

を伺いますと、生まれたときから音楽家になれる環境にあって、しかもそれに加えて大変努力されている。そ

ういった飯森さんのお話をぜひ今の小・中学生や高校生、大学生たちに聞かせたいですね。では次に、山形の魅力についてですが、国際的にも活躍されていて、世界を知っている飯森さんの目に映る山形の魅力についてお聞かせください。

**水と緑と澄んだ太陽と。
山形の豊かな自然は
どこかヨーロッパの郊外風。**

飯森 まず、山形の県民性が本当に純朴というか、何事も真っ直ぐで素直という印象です。そして、自然が豊かで食べ物がおいしい。さらに、音楽家として申し上げますと、ヨーロッパの有名な作曲家たちが自然を求めて出かけたリゾート地と山形の地理的な環境が非常によく似ていると感じています。水と緑が豊かで、そして澄んだ太陽があるという点で。今日も



飯森範親

いいもりのりちか●山形交響楽団音楽監督／神奈川県出身。桐朋学園大学指揮科卒業。ベルリンとミュンヘンで研鑽を積む。特に豊かな音楽性と表現力は世界的に高く評価されている。2006年度芸術選奨文部科学大臣新人賞、第51回山新3P賞など受賞多数。現在、山響の他、東京交響楽団正指揮者、ドイツ・ヴェルテンベルク・フィル首席客演指揮者、いずみシンフォニエッタ大阪常任指揮者などを兼任している。

白鷹町の最上川に行ってきましたが、ヨーロッパにある大河の畔の雰囲気と酷似していると。ですから、こうした自然豊かな環境下で音楽をやらせてもらえると、ヨーロッパでやっているのとはほとんど違和感がないんです。オーケストラも、この環境の中にいますから山形交響楽団の人は汚い音を出さない。今日もラフマニノフやショパンの曲を合わせましたけど、

山形での演奏は、ヨーロッパで



やるのと違和感がない。—— 飯森

本当に音がきれいだ。けっして汚い音を出さないんです。音色美に対する感性というのは、周りの環境に非常に大きく影響を受けるということは感じますね。

藤野 結城学長は山形生まれですが、ずっと山形を離れて活躍されてきて、再び戻ってこられて改めて感じる山形の魅力とはどんなところでしょうか。

結城 40年ぶりに生まれ故郷に戻ってきたわけですが、改めて山形は暮らす場所として素晴らしいと思っています。東京に長く暮らし、アメリカやオーストラリアにも住んでいましたが、子どもの頃にはわからなかった山形の人の優しさや信心深さ、精神性の高さのようなものを実感しています。そして、自然環境という点では、四季の移り変わりが非常に鮮やか。特に、学生が勉強に打ち込む場所としては、この山形の町、そして米沢や

鶴岡にもキャンパスはありますけれども、アメリカの大学町のような佇まいで大学の立地としては非常にいいと思っています。学生が人生をどう生きるべきかをじっくりと考える場所として、山形は、東京や仙台よりも優れていると感じています。

藤野 今度は、山形交響楽団の音楽監督としての飯森さんにお聞きします。国内



結城章夫

ゆうきあきお ●山形大学長／山形県出身。東京大学工学部物理工学科卒業。米国ミシガン大学大学院原子力工学科(工学修士)。科学技術庁入庁、文部科学省大臣官房長、文部科学事務次官等を歴任の後、2007年9月より現職。

外、さまざまなオーケストラと比べて“これが山形交響楽団の特徴だ”というどんなことがあげられますか。

飯森 心に余裕があるというか、団員のみなさんのモチベーションが非常に高いということです。プロのオーケストラなわけですから当然モチベーションは高くなくてはいけません。都内のオーケストラの多くは過密な公演スケジュールでなかなか集中できないといった状況にあります。その点、山形交響楽団の場合は、気持ちにゆとりをもって自分の納得のいくところまで突き詰められる、そういうオーケストラはそんなにないと思います。

藤野 結城学長は、いろいろなオーケストラの演奏をお聴きになっていると思いますが、飯森さんが指揮される山形交響楽団にはどんな印象をお持ちですか。

結城 非常に音が澄んでいると思います。特に弦が素晴らしい。弦楽器というのはオーケストラのレベルを如実に物語りますからね。

飯森 いい奏者が入ってくれるようになりましたしね。

藤野 それもやっぱり、飯森さんの魅力、お人柄に惹かれていいプレイヤーが集まって来るんじゃないかなと私は思うんですが。

飯森 それはどうか

かりませんが、確かに

中央でも十分に活躍できる優秀なプレイヤーががんばってくれているのでありがたいなと思っています。逆に中央から来られるプレイヤーも十分に納得できるオーケストラだとは思っていますね。

それぞれの地域貢献と いっしょに交流・協力することで 生まれる何か。

藤野 それでは、話題を少し進めまして、最近よく言われる地域との連携ということで、大学と地域、大学の地域貢献ということについてお話ししたいと思っています。山形大学では結城学長になってから「結城プラン2008」というものを打ち出しました。その中でも山形大学としての地域との関わりについていろいろ謳っていますが、結城学長から少しその中身をご紹介いただきたいと思います。

結城 山形大学は山形県唯一の国立大学

ですから、地域貢献も大きな役割の一つと位置づけています。大学は「知の拠点」として、知の継承、これは教育ということと若い人に知を伝えていくことと、新しい知を創ることなど、いろんな面で山形の知の拠点として貢献していかなければならないと考えています。山形大学は



東京よりも仙台よりも山形は 大学の町としていい。—— 結城

この山形のキャンパスと米沢に工学部があり、鶴岡に農学部がある分散キャンパスなんです。これは経営上は非常にやりにくい、不便な面もありますけど、かといってどこか一カ所に集めようということを私は考えません。といいますのは、分散キャンパスというのは県内の主要都市に拠点があるということで、全県に展開して根をはっていると思えば、地域貢献という点からはこのままのカタチの方がむしろやりやすいと思っています。

藤野 地域連携といえば、飯森さんは山形交響楽団との関わりの中で多大な地域貢献をされているのではないかと私は思っています。たとえば、今の山響さんの名刺の中にキャッチコピーがありましたよね。「食と温泉の国のオーケストラ」……。

飯森 はい、それは私が考えたものです。

藤野 こういうアイデアというか、いろんなところに飯森さんの考えが出ているんじゃないかと思いますが、飯森さんは地域とのつながりでどんなことを大切にされているのか、どんなことに注意されているか、ファンサービスの面も含めてお聞かせください。

大学も音楽も ニーズがなければ成り立たない きめ細やかさが求められる。

飯森 クラシック音楽というのは、いろいろな方々の嗜好の中でもまだかなり特殊なジャンルだと思うんです。ただ、最近は某マンガとかテレビドラマなどのおかげでかなり一般化してきていて、クラシック音楽への理解や興味が高まってきていると思います。でも実は、性別や年齢層によっても嗜好は違うし、それら

飯森氏指揮による山形交響楽団の第184回定期演奏会の様子。開演前行われる指揮者によるプレトークや終演後ロビーで開かれる指揮者や楽団員との交流会など、多彩な企画でも楽しませてくれる。



さまざまなニーズに合うような取り組みをしていかなければならないと思っています。例えば、0歳児から4歳までの乳幼児に限定した30分ぐらいの演奏会をやるとか。小さいときの子どもの感性は、やはり大人が育ててあげるしかない。自発的というのは無理なわけですから。そういった人たちのためにも、われわれ山形交響楽団が門戸を広げていかなければいけないのだろうと考えています。

藤野 すごいですね。指揮者である飯森さんが、お客様側からの目線で、性別や年齢などといったニーズという中で話されたのでちょっとびっくりして、大学としても大変参考になりますね。

飯森 いや、音楽家ってサービス業じゃないですか。だから、ニーズがなかった



藤野祐一

ふじのゆういち ●山形大学地域教育文化学部教授／山形県出身。東京芸術大学音楽学部声楽科卒業。同大学院オペラ科修了。バリトンとして「フィガロの結婚」「カルメン」など数多くのオペラに出演。山形音楽研究会会長。

ら成り立たないわけで、どのようにしたらそのニーズを広げられるかいつもアンテナを張り巡らせているわけです。

結城 コンサートの前のあのプレトークは素晴らしいサービスだと思いますね。

飯森 プレトークに関しては、必要ない

る学生たちにとって本番を観るのはもちろん勉強ですが、練習風景を拝見した学生たちにはすごく刺激になったようです。

音楽のプロと教育・研究のプロ。接点を増やしていくことでより力強い協力関係へ。

結城 山形交響楽団は山形の宝であり、われわれの誇りだと思います。山形大学としても山響さんにできるだけ支援をし、協力関係を築いていきたいと考えています。一つは山形大学が山形交響楽団の法人会員になる方向で検討、調整しているところです。若干なりとも支援していきたいと思っています。山形大学には音楽の専攻コースがありますので、そういった学生たちとより交流を持っていたければ素晴らしいと思っ

ております。

藤野 今、山形交響楽団からは4名の方

に非常勤講師として来ていただいています。実質はすでに少し交流はあるんですね。ただ、私としては何かの機会に飯森さんにキャンパスまでお越しいただけないものかと思っています。飯森さんの方から何か交流のアイデアなどがありましたら……。

飯森 日本人の音色美に対する感性はとても中途半端で、いい音を聞き分けられないという人が増えているんです。そういう学生たちに対して、音楽と絵画を結びつけて、たとえば、この音楽のイメージは何色？と問いかけながら進める授業はどうか、などと考えています。そして、山形大学と山形交響楽団、今後はさらにさまざまな接点を持って、山形の文化、教育と一緒に盛り上げることができたらと思っています。

結城 今日の対談の総括をしていただいたようで。これからもよろしくお願いいたします。

藤野 本日は実に実り多いお話をいただきありがとうございました。

「食と温泉の国のオーケストラ」



私が考えました。—— 飯森

という人もいます。でも、一般的にはプレトークがあるとコンサートにスーッと入っていきとおっしゃってくださる方が非常に多いので続けていますけどね。

藤野 さて、ここからはですね、いよいよ山形大学と山形交響楽団の交流ということでお話を進めていきたいと思います。昨年、東京でのさくらんぼコンサートの時に山大的学生10数名が関わらせていただきました。会議や勉強会をしたり、山響さんの練習に参加したり、飯森さんのリハーサルを見学したり。音楽を学んでい



毎週火曜日には山形交響楽団の楽団員が山大的非常勤講師として学生の指導にあたっている。基本的にはマンツーマン指導。先生が自ら演奏し手本を示すなど、熱心な指導ぶりには定評がある。



人文学部

Faculty of
Literature and Social Sciences

地域教育文化学部

Faculty of
Education, Art and Science

理学部

Faculty of Science

学生にとって居心地良い空間創り 「学生が主役の大学創り」を目指して～

学生にとって勉学と研究、そして人間形成の場となる大学キャンパスにとっては、施設としての機能だけでなく、景観・美観も大事な要素と考えられています。山形大学では、キャンパスが学生にとって快適な空間となるよう、ゆとりとくつろぎを感じる心地よい空間創りを行っています。

人文学部では、学部のエントランスホールの改装を行い、木質を基調とした落ち着いた安らぎのあるインテリアで心地よさを提供しています。また、学生用多目的室の増設や中庭の緑地整備なども行い、学生にとって居心地良いアメニティ空間を創出しています。

地域教育文化学部では、1号館の耐震化工事とトイレの改修工事に続いて、壁や床の改修・改装、ドアの取り替えを行い、建物が明るい空間へと再生しました。また、入口の外装と誘導路をリニューアルし、以前よりも明るい雰囲気が訪れる人を誘ってく

れます。

理学部では、理学部1号館の改修工事にあわせ、エントランスホールの一部を吹き抜け空間とすることにより、自然採光が豊富で明るく開放的なゆとりある空間を演出しています。学生が多目的に使用できるサイエンスプロムナードも同様に、自然採光を活かした光溢れる空間としてリニューアルしました。

また、昼食時の混雑緩和のために行った大学会館食堂の増築工事では、屋外テラスを設置し、開放的で自然を感じる空間として利用する学生に好評を得ています。学生サービスの向上としては、気軽にくつろげる図書館ラウンジの設置、課外活動の充実に向けた小白川体育館の改修・改築や学生のためのワンストップサービスを目指した工学部学生センターのリニューアルなど、山形大学ではキャンパス整備においても「学生が主役の大学創り」を目指しています。



人文学部エントランスホール



地域教育文化学部入口と誘導路



理学部サイエンスプロムナード外観



食堂屋外テラス

理学部

Faculty of Science

学術交流協定を締結しました

理学部では、この度、中華人民共和国の福建師範大学及び北京林業大学理学院と、それぞれ学術交流協定を締結することになりました。

これまで理学部では、大韓民国の大邱大学校自然科学大学及び釜山大学校自然科学大学の2機関と学術交流協定を締結し、様々な活動を通じて学術の発展に寄与してきましたが、これで、アジア地域における交流の場が大きく広がることになります。

学生交流・研究交流をより一層活発に行

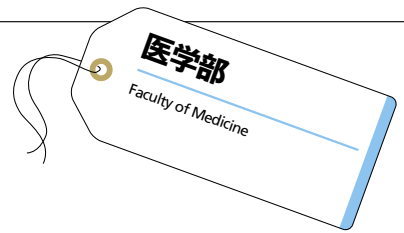
い、各機関との協力関係も深めながら、理学部では、今後とも、積極的な活動を展開していきたいと考えています。

※福建師範大学との協定書は平成20年4月1日(火)から発効。北京林業大学理学院との協定書は平成20年6月1日(日)から発効。



山形大学理学部と福建師範大学との学術交流協定書

医学部進学式及び入学式で、 アカデミックコスチュームを着用

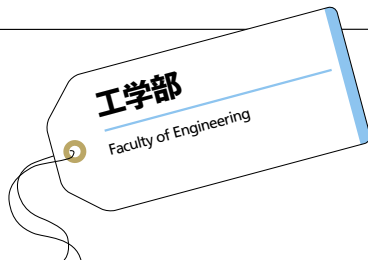


医学部では、4月4日(金)に医学部進学式、4月8日(火)に医学部入学式を行いました。

医学部進学式は、1年次に小白川キャンパスにおいて教養教育を履修の後、専門教育を学ぶため、2年次に飯田キャンパスに進級してきた医学部の学生が対象となります。式では、医学部長告辞により、これからの医療人としての心構えなどが述べられ、学生達は真剣な表情で聞き入っていました。更に今年から、これらの式に出席する教

授は、学識者の正装である「アカデミックコスチューム」のガウン、フード、キャップを着用することとしました。これは指導に当たる教授陣が「学識者の正装」を身に着けることで、学生達の向学心を育てると共に、母校への思いを強くして欲しいとの思いから、日本の国立大学医学部では初めての試みとなります。式の様子や教授陣のガウン

着用の姿は、新聞やテレビでも報道され、好評を得ていました。



産学共同ベンチャーが 90年の歴史を刻んでいます

1910年工学部の前身である米沢高等工業学校が開校し、その2年後、応用化学科に秦逸三教授が着任、ビスコース人絹の研究に着手しました。それまでは、絹、綿、麻のような天然素材しか無かったのです。この研究に注目したのが鈴木商店の大番頭であった金子直吉氏、鈴木商店の子会社の東工業を通して研究費を提供しました。数年後、金子氏は、この研究を事業化し、米沢市館山の地に米沢人造絹糸製造所を発足させました。今でいう大学発ベンチャーの

先駆けです。その後、秦逸三教授は米沢高等工業学校を依願退職し、米沢人造絹糸製造所の技師長として人絹工業発展のため尽くしました。後に、会社は米沢から広島へ移転し、現在「帝人」と名を変え、今年6月17日(火)で創立90周年を迎えるほどの発展を遂げております。

秦逸三教授の業績は、米沢キャンパスにある重要文化財の2階に展示されており、会社の跡地を望む高台には「人絹工業発祥之地」と刻まれた碑が帝人によって建てら



れています。

工学部は、2010年に創立100周年を迎えます。

「農学のタベ」を リニューアルして実施



農学研究科再チャレンジ制度入学者特別カリキュラムとして開講する講義を、一般の市民の方々へも開放し農学研究のトピックを紹介する「農学のタベ」を昨年度から開催しています。

昨年は農学部の教員16名で講義を実施しましたが、今年は農学部の教員に加え、客員教授や学長、学外者を交えて30名で実施することになりました。原則として毎週木曜日、6月5日(木)から来年の2月5日(木)まで実施を予定しています。

昨年は学校帰りの高校生の方や、会社帰りの方、庄内で実際に農業を行っている方など、様々な職業・年齢の方が来てくださいました。初めて大学構内に入った方も多く、大学をより身近に感じていただけたようです。最終講義の後に行ったアンケートには「来年も楽しみにしています」との意見があり、農学への関心の高さがうかがえます。



ブナ林での地道な調査から 自然界のリズムを読み解き 人間社会との共生のヒントに。

小山浩正 農学部生物環境学科准教授

一年後にブナの実が豊作になるか、凶作になるかを予測する研究に取り組んでいるのが小山先生。予測はすでに9割近い確率で当たっている。その成果は、ブナ林を効率的に再生させるためのデータになったり、人里への熊の出没警報に役立てたり、ブナの実を稀少食品として活用したり、意外なほどの広がりを見せている。そこには、小山先生のブナに対する並々ならない思いが感じとれる。ここまで小山先生を夢中にさせるブナの魅力や不思議に迫ってみた。

都会暮らしに辟易。
北海道でブナに出会い、
鶴岡でブナ林と向き合う日々。

東京近郊育ちで、都内の高校に通っていた小山先生は、その雑踏を抜け出したいと北海道の大学に進学。大学院修了後も北海道に残り、林業試験場で働くうちにブナ林と出会い、新緑のブナ林にすっかり魅せられてしまったのだという。
「一時はブナが伐採されて杉が植えられた

時期もありましたが、日本の森は放っておけばブナ林になるというぐらい、日本の原風景はブナ林なんです」と、私たち日本人にとってブナがどんなに特別な樹木であるかを力説する小山先生。そんな小山先生にとって、森林に占めるブナの割合が最も高い山形県は理想郷。常に身近にブナ林を感じられる鶴岡でブナの研究に明け暮れる日々。所属が農学部ということで、「食」としてのブナの実という新しい課題も加わり、研究にも一段と熱が入っている様子。

ブナの枝。太い冬芽の数から翌年の豊凶が予測できるという。上の枝が凶作の枝、下の枝が豊作の枝。



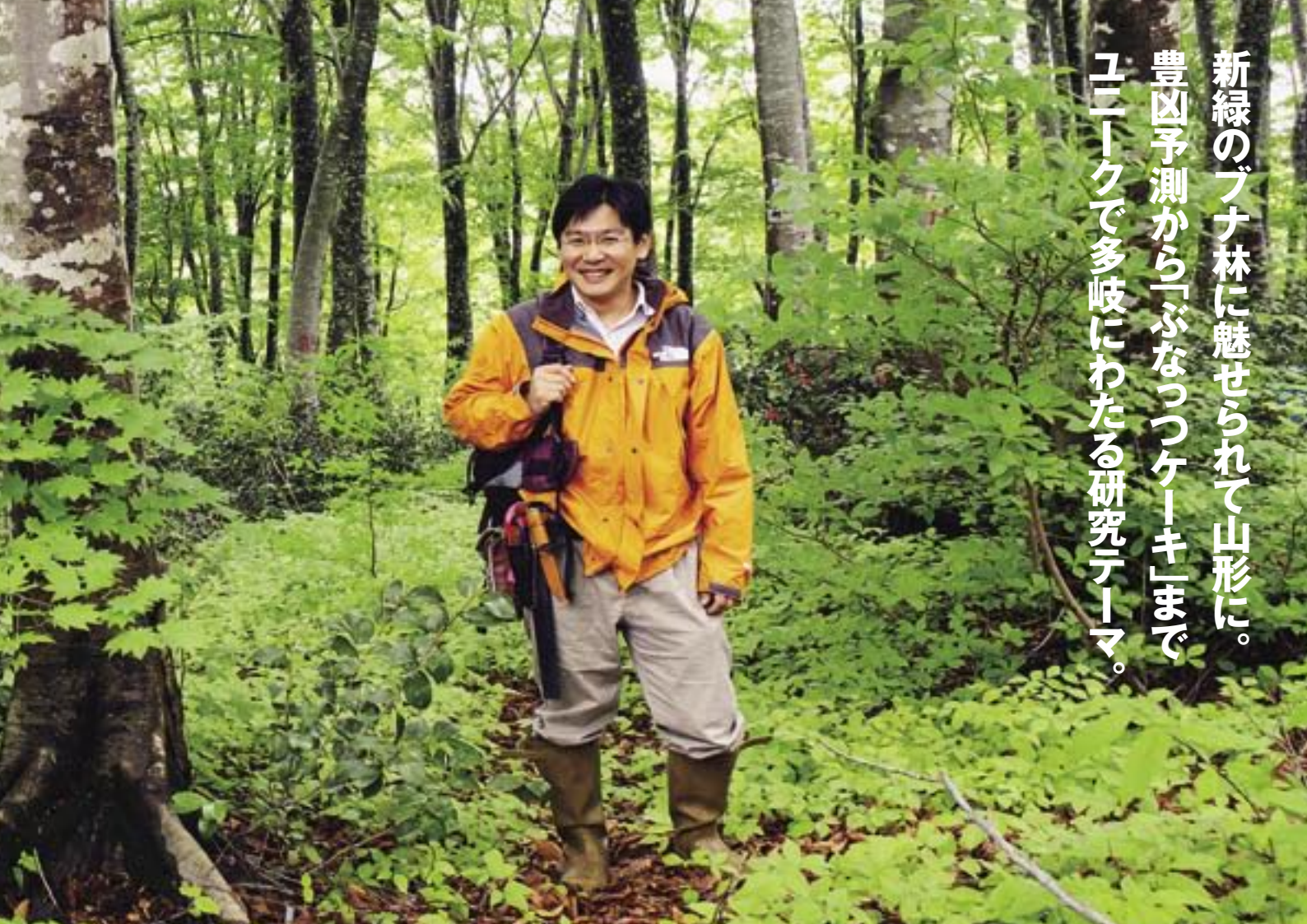
小山浩正

こやまひろまさ ●農学部准教授
／千葉県出身。北海道大学農学部卒業。同大学院農学研究科修士課程修了。北海道立林業試験場に11年間勤務した後、平成14年より現職。博士(農学)。専門は森林生態学、地域生態学。

生き残りをかけたブナの実豊凶作戦。
その豊凶予測は、ブナ林再生や
クマの出没警報などにも有効。

どんな植物にも豊作の年、凶作の年といったバラツキはあるもの。ところが、ブナの場合はその豊凶の差が激しく、研究者の関心を集めた。豊作は平均で5年に一度。実は、ブナにはブナヒメシクイという蛾の天敵がいて、ブナの豊凶は、その天敵からの生き残り策という説が有力。毎年豊作だと、ブナの花を食べる天敵の蛾が増え続け、ブナは子孫を残せない。そのため、わざと凶作の年をつくって蛾の餌を減らして激減させ、天敵の数を十分に減らしてから一斉に花を咲かせることで食害を逃れてた

新緑のブナ林に魅せられて山形に。 豊凶予測から「ぶなつつケーキ」まで ユニークで多岐にわたる研究テーマ。



くさん実を結ぶことができる。つまり、これが豊作。身動きできないブナが時間差を使って難を逃れているというのだ。これが本当なら自然界の知恵に改めて感服する。

さて、その豊凶の予測はどのように行っているかという、秋に出た冬芽の太さで判断する。約5ミリの冬芽の数が多ければ、翌年は豊作になる。この予測方法はクマの警戒システムの構築にも応用できるかも知れないと期待されている。ブナが凶作だと餌に困ったクマが人里に下りてくる可能性が高くなるわけだから。



ブナの実。右の殻の中に左のような実がふたつずつ入っている。さらに、その殻をむくと黒い皮に覆われた白い実にたどり着く。その味はクルミに似ている。

5年に一度という 希少性を逆手にとって 期間限定のツアーや商品を企画。

小山先生がそうであったように、新緑のブナ林を目の当たりにした人の多くは、その美しさに魅了され、心癒やされるという。ブナ林には人を引きつける観光としての要素も十分にある。このブナ林の魅力に5年に一度しか豊作にならないという希少性をプラスして、5年に一度のブナの実拾いツアーなどが企画できればおもしろいと小山先生は考えている。もちろん、ブナの実の豊凶予想が的中することが大前提の企画である。4年に一度のオリンピック以上に稀少な、セレブ感あふれるツアーになりそうだ。このように適度に人を里山に招き入れることによって、かつて人々が入りし活用することで保たれていた里山本来のリズムに近づけることができるという。自然を守るということは、決して人が立ち入らないということではないらしい。



小山先生らが商品化を進めているブナの実を使った「ぶなつつケーキ」。「ぶなつつ」とは、ブナとナッツを組み合わせた小山先生のネーミング。

さらに、アイデアマンの小山先生は食品としてのブナの実にも注目。クルミのような味がおいしいということで自ら「ぶなつつ」と命名し、学生たちと「ぶなつつケーキ」の試作などにも挑み、こちらも5年に一度しか食べられない稀少なスイーツとして商品化をめざしている。

この小さなブナの実を通して、小山先生は学生たちに森林の生態から商品開発まで、幅広い知識や体験を提供しているようだ。



山大聖火リレー

山形大学で学んだこと、過ごした日々、
それらはやがてさまざまな成果となって、社会に燦々と火を灯す。
現役山大学生やOBたちが各方面で活躍する姿を追った。



1

東宝社内で話題作のパンフレットを前にパチリ。仕事柄、役者や監督といっしょになる場面も少なくない。そんな時はさすがに気をつかうという。多忙ながらも充実した日々を伺わせるにこやかな表情が印象的。



2



3

2

長澤まさみ主演の映画『タッチ』の球場での撮影シーン。急きょ観客としてエキストラ出演することに。どんな場面でも臨機応変な対応が求められる映画の世界。この業界にいればこそその稀少な体験も少なくない。

3

懐かしい学生時代の写真。「山形国際ドキュメンタリー映画祭」のスタッフのみなさんと『ボディドロップ アスファルト』の和田淳子監督といっしょに記念撮影したときのもの。2列目左から3番目が我妻さん。

大学での学びを通して深まった映画への思い。 大好きな映画の世界で忙しくも充実の日々。

我妻千津子 東宝株式会社宣伝部勤務

実家のある高島町から近く、従兄弟が卒業生という身近さもあってごく自然に山形大学への進学を希望したという我妻さん。映画と文学と美術が好きで人文学部人間文化学科に入学、そこでの出会いや学びによって映画がますます好きになっていったという。特に、中村三春先生の映像論の授業に興味を覚え、卒業論文として『日本インディペンデント映画史』に取り組んだ。中村先生のゼミに入っていなければ映画がこんなに好きになることも、今の仕事に就くこともなかったに違いないと振り返る。大好きになった映画との接点を増やすために大学だけではなく、いろんなところでいろんなことを吸収した。映画館に通い、山形国際ドキュメンタリー映画祭を観に行った

り、仙台の学生映画祭にスタッフとして参加したり、地元ということで友達も多く、環境も合っていたのでいろんな活動を楽しんでやることができた。

卒論を書くために訪ねた人々との出会いに導かれて最初の就職先が決まり、さらにそこでの経験を生かして東宝宣伝部への入社がなかった。今は、新聞や雑誌などの媒体で映画を紹介してもらうために役者のインタビューをコーディネートしたり、完成披露試写会などのイベントを構築したり、評論家やライターに映画を観てもらってレビューを書いてもらったり、などのパブリシティという仕事をしている。最近担当した作品は『砂時計』『クロズド・ノート』『涙そうそう』など。さらに、『イキガミ』

という松田翔太さんの主演作と『K-20 怪人二十面相・伝』というお正月映画を担当するので、ぜひ観てください」と、ここでも宣伝部としての仕事を忘れない。

大学で学んだ映画論、演劇、美術、各文化演習、それらすべてが展覧会に行ったり、本を読んだりする際の下地になっていて、その知識が仕事にも生かされていると感じるという我妻さん。「大学時代は自分が好きなことを思いっきりできる時期。授業を楽しむのもよし、バイトで社会勉強するのもよし、恋愛で学ぶのもよし、旅するのもよし…。なんでも自分が好きなことを思いっきりやっておけば後悔しないはず」と後輩たちにアドバイス。自ら学生時代を悔いなく過ごして今があるという自信に満ちている。

探究の成果

今回のランナー:



我妻千津子

わがつまちづこ ●山形県高畠町出身。人文学部人間文化学科2001年度卒業。大学時代に映画が大好きになり映画の世界へ。現在は、東宝の宣伝部でパブリシティを担当。より多くの動員をめざして作品の魅力をアピールしている。



佐藤知穂

さとうちほ ●山形県鶴岡市出身。小学生からずっと熱中してきたバスケットボール。山大女子バスケット部の主力メンバーとしてインカレや国体でも活躍。本年度U-22日本代表候補に選ばれた。

チームメイトに恵まれ、心身共にのびのびプレー。 念願のベスト4入りと再度の日本代表入りを目指して。

部活の成果

佐藤知穂 地域教育文化学部文化創造学科3年

近年の山大女子バスケットボール部の活躍ぶりには目覚ましいものがある。インカレ(全日本学生選手権)で2年連続ベスト8入りを果たすなど、地方の総合大学としては異例の快進撃。佐藤さんは1年の時からレギュラー入りし、一昨年のインカレでも活躍、ベスト5に大いに貢献した。また、同年開催の「のじぎく兵庫国体」でも山形県成年女子チームの一員として初の全国制覇を達成。身長176cmとセンタープレーヤーとしては小柄ながらリバウンドに強く、昨年のインカレでは最多リバウンドの個人賞を獲得している。こうした活躍が認められ、佐藤さんは今年3月に全国から選抜された32人による合宿に参加し、最終的に本年度の22歳以下日本代表候補16

名に選ばれたのだ。「高校までは全国レベルの選手ではなかった。チャンスをもらえて光栄」さらにさかのばれば「山大に入れるとは思っていなかった」と謙虚な発言が続く。ラッキーを強調する佐藤さんだが、もちろんそうではない。大神監督の言葉を借りれば、「不器用だが一生懸命にプレーする選手」。その一生懸命さがチームに勝機をもたらし、佐藤さん自身にチャンスを引き入れているに違いない。本年度はユニバーシアード大会が開催されないため、代表候補としての活動はないものの、セレクション合宿での経験や代表候補としての自信と自覚が佐藤さんにもたらしたものは大きい。かつて全日本学生選抜チームに選ばれた先輩がそうだったように、佐藤さんも今

回の貴重な体験を言葉と行動の両方でみんなに伝えていきたいという。監督もチーム全体への波及効果を期待している。

月曜以外は毎日朝練・放課後練習、そんなバスケット漬けの日々で、佐藤さんには勉強面でもしっかりとした目標がある。保健体育の先生になるという小さい頃からの夢を実現するためにスポーツ文化コースで頑張っているのだ。ちゃんと両立させながら、まずチームとしてインカレで念願のベスト4の壁を破ること。そして、来年度もぜひ22歳以下日本代表候補となってユニバーシアード大会に出場すること。そのためにはプレーの幅を広げなければと課題も痛感している。「一生懸命」が佐藤さんをさらに進化させるはず、期待は高まる。



1

1 5月に開催された「平成20年度南奥羽春季バスケットボール大会」での迫力ある試合風景。この大会でも佐藤選手は大活躍をみせた。山大女子バスケット部は優勝し、佐藤さんは個人賞で優秀選手賞を受賞した。



2

2 昨年の全日本大学選手権東北地区予選で3連覇した時の喜びの表情。2列目左から3番目が佐藤さん。インカレでは2年連続ベスト8入りを果たした。チームメイトの仲の良さも山大女子バスケット部の強み。



3

3 山大の体育館で行われた高校バスケット部の合同練習での一コマ。練習試合形式で軽く対戦。青いビブスが山大で赤が高校生。さすがお姉さんの貴族、シュート数も得点も山大がリードしていた。

エリアキャンパスもがみ もがみめぐり

シリーズ③ 最上町



「エリアキャンパスもがみ」は、最上地区8市町村の豊かな自然環境を教育・研究・地域連携に生かそうと平成17年4月にスタートした大学と地域の新しい連携モデルです。最上広域圏全体をキャンパスに見立て、さまざまなフィールドワークや地域住民と教職員・学生との交流などを展開。山形大学のキャッチフレーズである「地域に根ざし、世界をめざす」やテーマとしている「自然と人間の共生」を具体的な形として実践しています。この「もがみめぐり」シリーズでは、毎回、一つの市町村をピックアップ。その地域の魅力とそこの活動内容を紹介します。



最上町は、山形県の北東部に位置し、宮城県、秋田県との県境にある自然豊かな町。周囲を奥羽山系に囲まれた盆地で、夏季には東風が吹き抜け、冬季は多雪という気候条件の中、1万数千人の人々が農林業と観光を産業の中心として生活しています。観光の中心は、瀬見温泉や赤倉温泉と赤倉温泉スキー場でのスキー、そして夏場の前森高原での自然体験などです。また、最上町は松尾芭蕉が奥の細道出羽路の第一歩を記した地としても知られ、国指定重要文化財の「封人の家」や尾花沢へ向かう途中に越えたという山刀伐峠があり、芭蕉の足跡を訪ねる人も少なくありません。自然、温泉、歴史、さまざまな癒しでもてなしてくれる静かな町です。

エリアキャンパスもがみ、最上町では2つのフィールドワークと要請を受けての2つの派遣活動を実施しています。「冒険家との語らいと特産物づくり」というフィールドワークでは、最上町在住の地球両極徒歩単独踏破の冒険家・大場満郎氏との語らいの中から自己実現のヒント等を吸収しています。また、アスパラガスやサクラランボの栽培農家での収穫体験や出荷施設見学などを通して町への理解を深めることも狙いの一つです。もう一つのフィールドワーク「交流 地域の活力に触れよう」では、秋の収穫祭や白川溪流公園環境整備事業などのスタッフとして参画し、地域の人々とふれあうことで地域の活力を感じ、地域づくりのあり方を実践的に学んでいます。

一方、最上町文化芸術による創造の町支援事業「吹奏楽でまちを楽しくしよう」プロジェクトでは、院生や学生を演奏指導者として派遣しています。最上中学校吹奏楽部の活躍は町民の大きな希望、そのさらなるレベルアップにいっしょに取り組んでいるのです。そして、「もがみまつり」では山大的花笠サークル「四面楚歌」が花笠踊りを上演することで祭りの活性化に一役買っています。学生たちは最上町の自然や文化、人々からたくさんことを学び、学生たちからは若さや元気といったささやかなお返し。そんな微笑ましいギブアンドテイクが徐々に定着してきています。

山々に囲まれた緑と風の町、豪雪の町、世界的冒険家のふるさとで生きる元気を育んでいます。



Areacampus MOGAMI MOGAMI

1 夏にはさまざまな自然体験ができる「前森高原」。2「吹奏楽でまちを楽しくしよう」プロジェクトで最上中学校の吹奏楽部メンバーを指導している様子。3 フィールドワーク「交流 地域の活力に触れよう」で巨木探訪。最上町東法田地区にある山形県指定天然記念物の大アカマツにて。4 同フィールドワークで、マスコットキャラクターの着ぐるみを着て祭りに参加。大いに盛り上げ、地域の人々とふれあった「産業祭り」。5 前森高原内の大場満郎冒険学校にて大場氏より講義を受ける学生たち。6「もがみまつり」で豪快な花笠踊りを披露する「四面楚歌」の雄姿。



ハルビン工業大学と共催で日本語教育に関する国際シンポジウムを実施

2月19日(火)人文学部205講義室において、山形大学人文学部とハルビン工業大学外国語学院の共催による、日本語教育に関する国際シンポジウムが開かれました。このシンポジウムは、昨年3月に山形大学人文学部とハルビン工業大学外国語学院が教育・研究に関する学部間協定を締結したことにもつづいた、教員間の研究交流の成果として行われたものです。また、両学部間の交流イベントとしては、昨年9月に12日間にわたり人



研究発表の様子

文学部の学生12名と教員・職員4名がハルビン工業大学で研修・交流を行った「異文化間コミュニケーション実習」に続く、第2弾と位置づけられるものです。

シンポジウムのテーマは、「中国語母語話者による日本語の文章をめぐる」というものでした。発表者は、耿鉄珍(ハルビン工業大学)、渡辺文生(山形大学)、楊蔭(ハルビン工業大学)の3名で、ハルビン工業大学での日本語作文教育をもとに、中国語母語話者にとっての日本語の文章の書き方の習得に関する研究発表をそれぞれ行いました。文章を書くということは、文法的な正確さだけではなく、母語の違いや文化の差などさまざまな要因が関わっていますが、昨年以來3名の発表者が協力して収集した作文データの分析をととして、作文指導の課題などについても議論が及びました。研究発表のあとには、コメンテータの黒沢晶子(本



研究発表後のディスカッションの様子

学国際センター)、後藤典子(山形短期大学留学生別科)の両氏を中心としてディスカッションが行われました。また、シンポジウムには本学の結城章夫学長をはじめ多くの本学関係者、地域の日本語教育や日中の国際交流に関わる方々のご出席をいただきました。どうもありがとうございました。

山形大学とハルビン工業大学では、学部間の交流協定から大学間の協定へのアップグレードが計画されており、今後の交流の発展が期待されます。

KIRA 学生企画ボランティアとして

地域教育文化学部 文化創造学科 異文化交流コース
4年 大沼 充

私達、異文化交流コースの学生は2年前より河北町国際交流協会(KIRA)が主催するイベント「KIRAキッズクラブ」に学生ボランティアとして参加しています。学生企画ボランティアチームができたのは今年からです。それまではKIRAのスタッフの方がイベントの内容、会場、昼食の手配、スケジュール等の準備をし、当日、私達学生が会場に行き、イベントに参加する子ども達の活動のサポートや昼食作りのお手伝いなどをする当日の活動がメインでした。今回からは今までの役割に加えイベントの一部を企画、運営します。企画ボランティアを異文化交流コースの2~4年生から6人募り、本番(6

月1日)の1ヶ月前から準備に取りかかりました。行ったゲームは韓国語のジャンケンを使ったゲームとフリスビーで得点を競うゲームを実施しました。いずれも企画ボランティアから出たアイデアをみんなで練り、タイムスケジュール、用具(フリスビーや得点板、賞品)などの準備をKIRAスタッフの方のアドバイスをいただきながら進めました。

今回、私と一緒に活動してくれた企画ボランティアはみんな就職活動や教育実習などで忙しい中、毎週打ち合わせに参加してくれ、本番においても初めてのゲーム進行に奔走しながら子ども達とともに楽しむ姿がとても生き生きしていました。



企画チームで考えた「はいはいフリスビー！」説明にも熱が入ってます！



ゲストのコリンさんとカナダの紙飛行機作り、思い思いの形、デザインにして飛ばしました！

した。

今年度のKIRAキッズクラブは残り3回(10月、11月、2月)です。今回、ゲーム企画に携わり大変でしたが自分達が企画したゲームで楽しんでくれている子ども達を見て、より身近に感じ活動することができました。何より好きなことを思いっきりすることができたことが一番です。子ども達について、国際交流について、イベントの企画・運営について、考え深めるべき課題はたくさんあります。それらを通じ、子ども達が、企画ボランティアが“好きなことを、思いっきりできる”、そんな場を残った時間を使い作ることができたら最高です。



午後は英語で「だるまさんが転んだ！」みんな一緒に楽しみました。

YAMAGATA UNIV. OPEN CAMPUS 2008



8/1 (金) 飯田キャンパス—医学部 米沢キャンパス—工学部 鶴岡キャンパス—農学部

- 医学部 飯田キャンパス(山形市)**
医学科/9:30~12:30 (受付/9:00~)
※医学科は、13:30~16:00 体験授業
(一日医学生)も開講します。
看護学科/14:00~16:30 (受付/13:20~)
- 工学部 米沢キャンパス(米沢市)**
9:50~16:30 (受付/9:00~)
- 農学部 鶴岡キャンパス(鶴岡市)**
11:00~16:00 (受付/10:00~)

8/2 (土) 小白川キャンパス 人文学部・理学部 地域教育文化学部

- 各学部9:30からスタート(受付/9:00~)
- 人文学部**/9:30~15:00
- 地域教育文化学部**/9:30~16:30
- 理学部**/9:30~16:30
- 附属図書館・附属博物館**
館内案内ツアー
9:30~16:30
※農学部の相談ブースも設置します。
9:30~16:30



● 来場者特典

来場者には山形大学オリジナルグッズをプレゼント! (数に限りがございます。)

● 学生食堂体験

学生食堂を営業いたしますのでご利用ください。

● 無料シャトルバスを運行します

各キャンパス“最寄り駅”(山形駅、米沢駅、鶴岡駅)から無料シャトルバスを運行いたしますのでご利用ください。

小白川C⇔山形駅、飯田C⇔山形駅、
米沢C⇔米沢駅、鶴岡C⇔鶴岡駅

● なんでも相談コーナー

在学生・職員が入試のことや学生生活のことについて何でもお答えします。

● 参加申込み受付中!

事前申込みが必要です。(原則として予約制ですが、当日の参加も歓迎します。)

※事前申込みをいただき、メールマガジン登録をしていただいた方には本学の入試に関する情報をお送りいたします。

詳しくは山形大学ホームページ
をご覧ください。

www.yamagata-u.ac.jp/index-j.html
携帯サイトへはこちらから→



大学院説明会

- 社会文化システム研究科**
日時/7月23日(水)
問い合わせ/入試ユニット
TEL 023-628-4141

入学試験

- 工学部**
アドミッション・オフィス入学試験(AO入試)(Aコース)
(第1次選考)9月13日(土) 工学部(米沢市)
(第2次選考)10月18日(土) 工学部(米沢市)
- 医学部第3年次編入学(看護学科)**
9月1日(月) 医学部(山形市)
- 工学部第3年次編入学(A・Bコース)**
8月30日(土) 工学部(米沢市)
- 農学部第3年次編入学**
7月5日(土) 農学部(鶴岡市)
- 大学院社会文化システム研究科**
(推薦)9月18日(木)
(一般、社会人、外国人留学生)
9月19日(金) 人文学部(山形市)
- 大学院理工学研究科(理学系)博士前期課程**
(推薦)7月12日(土)
(一般、社会人、外国人留学生)
8月19日(火)・20日(水) 理学部(山形市)
- 大学院医学系研究科**
(医学専攻・生命環境医科学専攻)
8月25日(月) 医学部(山形市)
- 大学院医学系研究科(看護学専攻)**
8月29日(金) 医学部(山形市)
- 大学院理工学研究科(工学系)博士前期課程**
(推薦)7月17日(木)
(一般)8月21日(木)・22日(金)
(社会人)8月21日(木)
(外国人留学生)8月22日(金) 工学部(米沢市)
- 大学院理工学研究科(工学系)博士前期課程**
(平成20年10月入学)
(一般)8月21日(木)・22日(金)
(社会人)8月21日(木)
(外国人留学生)8月22日(金) 工学部(米沢市)
- 大学院農学研究科**
9月5日(金) 農学部(鶴岡市)
- 大学院理工学研究科(理学系・工学系)博士後期課程**
(第一回)8月29日(金) 理学部(山形市)・工学部(米沢市)
- 大学院理工学研究科(理学系・工学系)博士後期課程**
(平成20年10月入学)

- 8月29日(金) 理学部(山形市)・工学部(米沢市)
問い合わせ/入試ユニット
TEL 023-628-4141

公開講座等

地域教育文化学部

銅版画の世界

- 日時/9月6日(土)・13日(土)・20日(土)
27日(土)・28日(日) 15:00~17:00
- 募集人員/一般の方 15人
- 場所/地域教育文化学部1号館共通13演習室(山形市)
- 参加費/3,500円
- 問い合わせ/地域教育文化学部事務ユニット 総務チーム
TEL 023-628-4304

理学部

親子で体験! バイオロジー・6 ウニとイモリの卵を覗く観察会!

- 日時/8月9日(土) 10:00~16:00
- 場所/SCITAセンター(山形市・理学部内)
- 募集人員/小学5・6年生、中学生及びその保護者 30人

山形大学の行事・催事のご案内です。
地域に根ざした大学としてみなさんのご参加をお待ちしています。

参加費／無料

問い合わせ／SCITAセンター

TEL 023-628-4506

望遠鏡を作って、観る

日時／8月9日(土) 18:00～20:00

場所／SCITAセンター(山形市・理学部内)

募集人員／小学4年生～中学生及びその保護者 20人

参加費／無料

問い合わせ／SCITAセンター

TEL 023-628-4506

サイエンス・サマースクール inやまがた

日時／8月4日(月)～8日(金)・12日(火)

場所／理学部(山形市)

対象／高校生

参加費／無料

問い合わせ／理学部事務ユニット

TEL 023-628-4505

医学部

看護師のキャリア・アップを目指して

日時／9月20日(土)・27日(土)

13:00～16:00

募集人員／看護師、看護管理者、病院管理者、
看護学校管理者、山形県看護協会役
員、高校の進路担当教員等 100人

場所／医学部大講義室(山形市)

参加費／4,000円 テキスト代 3,000円

問い合わせ／医学部総務ユニット

TEL 023-628-5006

工学部

科学フェスティバル

日時／8月2日(土)・3日(日)

10:00～16:00

場所／工学部

対象／小・中学生

参加費／無料

問い合わせ／工学部事務ユニット企画調整役

TEL 0238-26-3002

日本のエジソンが河合塾にやってくる! 有機ELの第一人者が語る

日時／9月9日(火) 16:00～

場所／河合塾名駅キャンパス16号館名古屋校

対象／予備校生、高校生、高校教員、保護者、一般の方

参加費／無料

問い合わせ／工学部事務ユニット 研究支援チーム

TEL 0238-26-3004

www.yz.yamagata-u.ac.jp/edison/

学術情報基盤センター

遠隔教育における インターネット安全教室

日時／8月6日(水) 10:30～16:00

場所／学術情報基盤センター第1実習室(山形市)

募集人員／教育関係者、保護者、学生

午前の部 50人・午後の部 50人

参加費／無料

問い合わせ／学術情報部情報企画ユニット(学術情報基盤センター)

TEL 023-628-4680

国際センター

留学生による日本語発表会

日時／8月1日(金) 10:00～16:00

場所／小白川キャンパス(山形市)

対象／教職員、学生及び一般の方

参加費／無料

問い合わせ／国際センター

TEL 023-628-4119

附属学校

親子わくわくワークショップ

日時／7月26日(土) 10:00～12:00

場所／附属小学校体育館(山形市)

募集人員／幼児、小・中学生とその保護者、幼稚園・保
育園・小学校・中学校・特別支援学校の教員
等 親子50組(教員は親子でなくても可)

参加費／500円

問い合わせ／附属小学校

TEL 023-641-4443

「障がい」って何?

疑似体験を通して心を育てる

日時／8月2日(土) 10:00～11:30

場所／附属中学校(山形市)

募集人員／小・中学生とその保護者、一般の方 親
子25組(教員は親子でなくても可)

参加費／無料

問い合わせ／附属特別支援学校

TEL 023-631-0918

親子で楽しむ夏の星座

日時／8月3日(日) 18:30～20:00

場所／附属中学校(山形市)

募集人員／幼児、小・中学生とその保護者、幼稚園・保
育園・小学校・中学校・特別支援学校の教員
等 親子50組(教員は親子でなくても可)

参加費／無料

問い合わせ／附属中学校

TEL 023-641-4440

幼児期の子育てを一緒に考えてみませんか?

日時／9月27日(土) 10:00～11:30

場所／附属幼稚園遊戯室(山形市)

募集人員／未就園児と保護者親子 30組

参加費／500円

問い合わせ／附属幼稚園

TEL 023-641-4446

夏季セミナー

脳科学に学ぶ 発達障障害の理解と支援のあり方

日時／8月23日(土) 10:00～16:45

場所／国際交流プラザ(山形市)

対象／一般の方(特別支援教育に関心のある方)

参加費／1,000円

問い合わせ／附属特別支援学校

TEL 023-631-0918

教職研究総合センター

免許状更新講習(予備講習)

日時／7月26日(土)～8月23日(土)

(各講座で開講日が異なります。)

場所／小白川(山形市)、米沢(米沢市)、鶴岡(鶴岡
市)のキャンパス及び酒田市、新庄市、金山
町の各会場(各講座で会場が異なります)

対象／教諭(各講座で受講対象者が異なります)
受講料／無料

その他／各講座の詳しい内容は山形大学ホ
ームページをご覧ください。

問い合わせ／修学支援ユニット 免許・資格担当

TEL 023-628-4712(直通)

E-Mail: kmkyom-men@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

山形大学特別プロジェクト

「藤沢周平の山形 第3章 山形」 高校生朗読コンクール

高校生の皆さんによる藤沢作品の朗読発表
会を開催します。

本選／9月6日(土) 13:30～17:00

会場／小白川キャンパス教養教育棟講義室(山形市)

「藤沢周平の山形 第4章 米沢」 エッセイ朗読発表会

一般の方から御応募いただいたエッセイの
朗読発表会を開催します。

発表会／9月20日(土) 13:00～16:30

会場／工学部旧本館(米沢市)

問い合わせ／総務部総務ユニット

TEL 023-628-4004・4006

「山形大学
未来基金」

ご協力をお願い

何よりも学生を大切にする大学を目指して

本学は昭和24年5月に新制大学として発足し、以来教育・研究・地域貢献に真摯に取り組み、次世代を担う人材の育成、知の探求・継承・発展及び豊かな地域社会の実現に努めてまいりました。

また、当初文理学部、教育学部、工学部、農学部の4学部でスタートした本学も、歴代学長をはじめとする教職員のたゆまぬ努力、地域、本学卒業生等の関係各位の御尽力と御協力により、現在では人文学部、地域教育文化学部、理学部、医学部、工学部、農学部の6学部と、これらの学部を基礎とした社会文化システム研究科、教育学研究科、医学系研究科、理工学研究科、農学研究科の5研究科、その他各附属施設、学内共同教育研究施設等が設置されており、約1万人の学生が在学する東日本有数の総合大学に発展しております。

さらに、平成16年4月の国立大学法人化を契機として、運営費交付金が毎年減額される中で、自主・自立の大学運営に向けた経営方法の改善や事務手続きの簡素化・迅速化など、全面的な大学改革を進めてまいりました。

今後も地域社会のニーズに的確に応え、より質の高い教育・研究を通じて地域・社会に貢献できる大学を目指し、皆様からの御協力を賜りながら魅力ある大学へ確実に進化を遂げていきたいと考えています。

また、大学の主役は学生であり、何よりも学生を大切にした大学創りを進めていきたいと考えています。その一環として、学生が存分に勉学に励み生活できる教育・研究環境を整備するため、新たに「山形大学 YU Do Best 奨学金」を創設いたしました。

そして、この奨学金を安定的かつ適切に運用し、山形県、さらには我が国の「知の拠点」として多くの優秀な人材を輩出するという大学としての責務を確実に果たすべく「山形大学未来基金」を発足させることにいたしました。

何卒、本基金の御趣旨に御理解、御賛同いただき、格段の御支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

国立大学法人山形大学長

結城 章夫

※詳細は同封のパンフレットをご覧ください。

編集後記 Editor's Note

昨年度、大学会館や体育館の工事に加えて、各学部の建物の改修や改装が相次ぎ、小白川キャンパスの風景が変わりました。そして、季節は春から夏へと移り変わり、キャンパスの彩りも変化しています。地域に根ざした大学として、山形大学は教育研究、地域貢献などの面でも変化を繰り返してきています。昨今の急激な変化に戸惑うことも多くなりましたが、変化の中に変化しないものを見つけ、不変と思われるものから絶えず変化が生じていることを理解しなければならぬのかもしれない。今年度、「みどり樹」の編集体制が代わり、今回は新体制で初めての発行となります。そのため、従来のよさを継承しつつ、誌面に多少の変化をつけてみました。本誌でその変化を感じていただけたでしょうか。私たち編集委員は、山形大学の変らぬよさを求め、変化する大学の姿をお伝えするために、新しい試みを取り入れながら、これからの誌面づくりを行っていききたいと思います。

(みどり樹編集委員会委員 出口毅)

表紙のことば

この日、非常勤講師として山大を訪れた山形交響楽団のトランペット奏者。プロならではの知識と経験を生かして学生たちの指導にあたっていた。楽譜を見ながら的確にアドバイスする先生。厳しい練習の合間にはこんな談笑風景も。

- この「みどり樹」は下記URLからもご覧になります。
URL : <http://www.yamagata-u.ac.jp/html/kouhoushi.html>
- 「みどり樹」に対するご意見・ご質問等をお気軽にどうぞお寄せください。
E-mail : sombun@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
- 「みどり樹」は、3月、6月、9月、12月に発行する予定です。

— 地域に根ざし、世界を目指す —

山形大学ホームページ <http://www.yamagata-u.ac.jp/index-j.html>